



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	リノビスタタワー 空機・実験保管倉庫	BEE	0.7	BEEランク	B-	★★

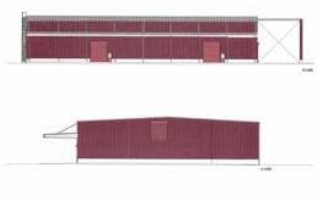
2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.0	/5				がんばろう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.3	/5				がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.0	/5				よい
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.4	/5				がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点	2.0
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地内の外構緑地指数45%以上を確保した。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制	⑪ 節水 1.2 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
	LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
	LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	2.3
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点	4.0
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ	⑲ 地域性への配慮、快適性の向上	
■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)	Q-3 3 3.1 ㉑		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	2.4
■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地内の外構緑地指数45%以上を確保した。	Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 2 ② まちなみ景観への配慮 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	⑤ 生物環境の保全と創出 ② まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
■敷地外環境対策 (⑳温熱環境悪化の改善)	LR-3 2 2.2 ⑤	⑤ 温熱環境悪化の改善	

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	キリンデスティナリー 空樽・実樽保管倉庫	階数	地上2F
建設地	静岡県御殿場市柴怒田970	構造	S造
用途地域	用途地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	20人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,952時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年11月 予定	評価の実施日	2019年6月11日
敷地面積	152,159 m ²	作成者	松永徹太郎
建築面積	2,920 m ²	確認日	2019年6月11日
延床面積	5,336 m ²	確認者	森本欣伸



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 2.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 0.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.4

3 設計上の配慮事項		
総合	倉庫の機能を満足させるものとする。エネルギー負荷をできる限り抑えること。周辺環境に十分配慮したものとすること。緑地の確保に注意を払うこと。	
その他	0	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
建物用途が倉庫であるため、一時的な作業以外には騒音は一切発生しないため遮音効果は特に必要がない。恒常的な作業はないので温熱、光、空気室もできる限り最低限の仕様とする。	倉庫としての機能を満足させるものとする。耐震性は建築基準法及び静岡県の条例基準を順守するものとする。電気配線、スプリンクラー配管の機能性、更新性を重視した設計とする。	敷地面積に対する緑化率は45%である。外装の配色は周囲の環境を配慮した色合いとする。敷地内の建物の色を統一している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物外皮の負荷レベルは低いが、空調設備を導入しているわけではないので、その影響でエネルギー負荷が大きくなることはない。	躯体、外壁・屋根共、再生可能な材料を使用する。またできる限り有害物質を含まない材料を選択する。	建物の機能上、周囲への騒音・振動等の問題は発生しない。建物の高さは低いため、日影や風害の問題はない。また、窓もないので周辺への光害、グレア問題は発生しない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照された